

## 読者からのメッセージ・その2

# 自助努力、公助に加え 「共助」が欠かせぬ時代に

近畿労働金庫  
副理事長

塩谷 浩



「オープンハウス要録集総集編VOL.2」の発行おめでとうございます。近畿労働金庫を代表して一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。日本経済の「グローバル化」、「規制緩和」等の進展や「バブル崩壊」後の長引く不況により、労働運動は「冬の時代」に入ったといわれています。確かに近畿労働金庫の会員数（労働組合数）の推移を見ましても、近畿労働金庫統合後の3年半で330組合減、約16万人の働く仲間が職場を去っています。こうした状況のもと、労働運動の再活性化が叫ばれていますが、多くの組合ははまだ明確な答えを見つけられず苦慮されていると聞いています。しかし、貴労組におかれましては「ユニオン・オープンハウス」を始め組合員の皆さん一人ひとりが主体的に活動に参加したくなるような、そして社会的にも意義ある活動メニューが関谷委員長はじめ組合執行部の皆さんによって提供されており、連合神戸地協傘下でも出色のユニークさを有する労働組合であると認識されていると聞いています。組合員の皆さんが「組合費を払ってでも組合員でよかった」と感じられる組合活動を今後も展開されることを期待しています。21世紀の社会は自助努力、公助に加え「共助」が欠かせぬ時代であると思います。労働金庫の出番もこれからだと思います。「働く人たちが、働く人のために作った金融機関（労金）」を今後ともよろしくお願いします。



# 連帯と支えあいに立脚した 情熱あふれる取り組みに 最大の敬意を

参議院議員

辻 泰 弘



今日、世界各国の合意と協力の下に対応しなければ解決できない地球規模の問題が山積し、解決に向けての世界全体の合意形成と体制づくりが必要となっています。とりわけ、経済先進諸国の責任とリーダーシップの発揮が不可欠となっています。また、経済・社会を将来に向けて持続させていくためには、環境とエネルギーに限りがあることを自覚しつつ、個々人のライフスタイルや消費行動についても見直していかなければなりません。同時に、心豊かな生活を実現する上で、連帯と支えあいの精神に立脚した地域コミュニティの活性化が求められています。コミュニティにおける市民活動やボランティア活動などへの参加は、生活の質と幅の広がりを大きくもたらすことでしょう。このような時代背景の下にあって、パンテックユニオンの皆さんが、これまで環境問題とボランティア活動を二大テーマとして、「オープンハウス」の活動に精力を注いでこられたことは、誠に的を得たものであり、その情熱あふれる取り組みに対し、心から敬意を表する次第です。ここに、要録集がめでたく20号を迎えられ、総集編Vol.2が発刊されたことにお祝いを申し上げますとともに、パンテックユニオンの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



# 「新しい『公』」を担う ボランティア・NPOの 役割増大に応える活動を

兵庫県議会議員

羽田野

求



貴ユニオンが「環境とボランティア」をテーマとして活発に活動され、「ユニオン・オープンハウス」の要録集第20号の発行を迎えられたことに対して敬意と連帯のご挨拶を申し上げます。マンホールチルドレンへの支援とモンゴルの森林再生事業に取り組んでいる一人として「オープンハウス要録集」を毎回読ませていただくのが楽しみです。私にとってモンゴルとの交流のきっかけは、1991年の年末に「新生モンゴル」をアピールするために自転車で世界を一周しているモンゴルの青年達を神戸に受け入れ、マンホールチルドレンの存在を知ったことがお付き合いの始まりでした。そして毎年ボランティアツアーを組みモンゴルとの交流を重ねる中、1998年にはバガバンディ大統領との会談が実現し、モンゴルの森林大火災で焼失した緑の再生・植林事業を兵庫県の自治体レベルで支援することを大統領に提案。地球温暖化防止の国際貢献の観点から兵庫県が神戸製鋼、コープこうべの協力を得て昨年「ひょうご型CDMモデル事業」としてスタートさせることができました。このように、息長く地道に継続する中から、新しい展開が生まれてくるものです。環境問題や超高齢化社会などの解決には、官と民の間分野である「新しい『公』」を担うボランティア・NPOの役割が増大してきています。その意味で、「オープンハウス」の今後の展開と一層のご活躍を心から期待申し上げます。



# 21世紀型労働組合の オピニオンリーダーとして



小学校教員  
佐々木 勉

パンテックユニオン発行の「ユニオン・オープンハウス要録集」を送って頂きありがとうございます。21世紀の労働組合のあり方を考える上で、とても大切な試みをしていると思い興味深く読ませていただいています。アメリカの未来学者ヘンダーソン博士は「日本には、まだまだ大きな潜在力がある。特に地球環境に配慮した『グリーン経済』の分野で、リーダーシップを発揮して、その力を発揮してほしい」と、ある日本の識者に語っています。今、「世界の工場」としての中国の経済成長が話題になっていますが、その中国では既に日本が経験してきた公害の防止、大気汚染、汚水、廃棄物処理などの問題が大きな社会問題になってきています。こうした問題に貴社のような環境ビジネスに取り組む企業が、世界の最先端技術を持って、その経験を生かされることは、貴社の発展のみならず日本と中国、そしてアジア諸国との友好をも深めていくことにつながります。当面の利益だけを求めてすべてを浪費していくやり方では、もう企業の将来はありません。どうしても当面の利益の確保に重点を置きがちな企業経営に対し、パンテックユニオンが賃金闘争だけでなく、社会貢献の道を模索しながらオピニオンリーダーの役割りを果たそうとされることは、21世紀の労働組合のあり方として大変貴重な歩みだと思います。エコビジネス（環境産業）こそ21世紀型産業です。貴社のますますのご発展を祈ってやみません。

